



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年11月25日(水)

Vol. 316

地方の景気回復は

秋元 秀夫

小糸川秋花火を終えて、この稿を書き始めました。

この秋花火は大変難産でもありましたが、川名実行委員長を中心に皆さんが良く足を運び、努力された甲斐のあるすばらしい大花火となって多くの観衆の大拍手の連続でありました。

また一方16日には坂田、中野、久保商店会に続いて21日には久留里商店会のイルミネーションが点灯され、各商店会共に例年よりもスケールもデザインも素晴らしい景観を見せてくれました。私は毎年この頃には4市の商店街を見物に参りますが君津の様なイルミネーションはどこにも見当たりません。よく祭りや花火、イルミネーションの効果(メリット)を問う方もおられますが、イルミネーションの点灯準備をしていると通りがかりの人達が「うわあ！イルミネーションをつけてくれてありがとう！これで明るい年末を迎えられます！」と声をかけてくれます。

祭りも花火も資金、時間、労力等で大変な苦勞、努力が伴いますけれど、その地域の人達がリーダーたちの熱意に共鳴し、段々と数が増えて大きな事業を成し遂げて行く達成感、感動、感謝の思いがその地域の人達に自信、誇り、生きがいを作る大きな原動力となり、世界の人々を驚嘆させた東日本大震災の時の信頼の和につながって行くのだと思います。

これから迎える日本の経済は、多くの人達の願望と異なり、地方の疲弊、人口の減少、社会保障という難問題にはここ1~2年は具体的な政策は見つからないのではと懸念しております。例えば地方創生策=プレミアム商品券であります。この事は政治や行政にかかわる人達が地方、中小企業の困窮を分かっているからであります。アベノミクスが目指す大企業、高所得者がもうかれれば地方や中小企業へと余剰金がしたり落ちると言うトリクルダウンは尚更ほど遠いと言う事もわかってはいないのです。大企業がトリクルダウンをしないのは長い、長いデフレ不況を乗り越えてきた策は、設備も在庫も正社員も抱えない経営理念が消えないからであります。

前年度大企業の内部保留は凡そ354兆円過去最大の数字であり、2015年度の経常収支は黒字10兆円を超えるだろうと私は思っておりますが、中国経済も成長率7%弱と言われておりますが、実態はもっと大幅に悪いのではとの説もあり、新興国経済の先行き不安が内部保留をさせていると思われれます。景気は国内では何と言っても個人消費が柱ですが求人倍率や失業率は極めて良いようですが、40%近くは非正規社員であり、金持ちと言われた高齢者達も年金が縮小、医療介護の負担増による手取り給付金が大幅に減少しており、将来への警戒心がお金を使わせないようです。

こうした難しい時は人の心を明るくすることです。今からまだ間に合います。

イルミネーションは一連10メートル4千円位だそうです。各店1~2本奮発して店頭を飾って下さい。ちょっとした努力で秋花火や商店会のイルミネーションの様に地域や街は変わるものです。

景気、不況は人の心に起こるものですから…